

ズブズブ班 B

ラオス・サイタニー郡における森林分類と食用植物・キノコ 齋藤暖生（京都大学農学研究科）

キーワード：森林分類，食用植物，キノコ，採取，環境利用

調査期間・場所：2004年8月22-29日・サイタニー郡、9月4日-17日・サイタニー郡、11月1-6日サイ
タニー郡、3月4日ドンクアイ村

Woodland Classification and Use of Edible Plants and Mushrooms

Haruo SAITO (Graduate School of Agriculture, Kyoto University)

Keywords: woodland classification, edible plants, mushrooms, gathering, environment use

1. はじめに

2004年度のサイタニー郡における聞き取り調査の結果、森林から食用資源として葉菜類約30、木の実15、タケノコ約20、キノコ約70の呼称がリストアップされた。他の東南アジアモンsoon地域と同様に、サイタニー郡において森林は野生の食用植物や菌類を採取する上で重要な場となっている。

一方、サイタニー郡の自然地理学的な特徴は、極めてなだらかな地形が広がることである（小野 2004）。このような中において、森林は、採取を行なう村人によってどのような分類がなされているのか知ることは、彼らが多様な採取物を得るメカニズムを理解するのに役立つと思われる。ここでは、村人により分類される森林のタイプと、それぞれのタイプの森林が村人にどのような産物を提供しているのかについて整理し、生態史的研究へ発展させるための予察を行なう。

2. 調査経過

2004年8月から11月にかけて、サイタニー郡内の10か村の村人を対象とし、彼らの森林の分類の仕方と採取している森林由来の植物・菌類資源の種類およびその採取場所について聞き取り調査を行なった。情報を得た10か村は以下の通りである。Phonpheng、Phonxay、Samsa At、Nonsonhom、Sanghuabo、Natan、Bolek、Dounhieng、Dongkhuai、Parkxap May。

3. 村人による森林の分類と採取される食用植物・菌類

3-1. 村人による森林の呼称と定義

村人によって認識されている森林タイプは、村によって呼び方・分け方に多少違いはあるものの、概ね次の4つに分けることができる。

(1) パー・ドン (Par Dong)

うっそうとした密林を指す(写真.a)。村の中心からは離れた場所にある。ここは、長年切り開かれていないため、老齢の大きな木から構成される。この林内は暗く、土壌は肥沃で湿気が多く、乾季でも樹木の葉は落ちないという。そのほか、ここに生育する樹木の特徴として樹皮が薄いことがあげられた。

(2) パー・コク (Par Khok)

やや疎らな森林を指す(写真.1.b)。これは、切り払って焼畑(ハイ)にした後3~10年(村によって定義が異なる)以上放置された森、もしくは痩せた土地にできた森林であり、木はさほど大きくなく、林冠も十分には閉鎖していない。この土壌は痩せていて乾燥気味で、乾季には落葉する樹木が多いという。また、ここに生育する樹木の特徴として樹皮が厚いことも挙げられた。

a. パー・ドン



b. パー・コク



c. パー・ラオ



d. タム



写真. サイタニー郡における4つの森林タイプ

(3) パー・ラオ (Par Lao)

ごく若い段階の森林を指す (写真 .c)。これは、焼畑のあと放置された森林で、パー・コクに至る遷移の途上にあり、高さ 5m ほどまでの幼樹、灌木、藪からなる林地である。

これまでの3タイプの森林は互いに関係があり、焼畑耕作活動を介して循環的にタイプが転換する。現在はパー・ドンを切ることは禁止されているが、かつてはパー・ドンを切り開いて焼畑を作ることもあった。こうした場合、焼畑を放置した後はパー・ラオになり、さらに放置し続けると、パー・コクを経て、パー・ドンに戻るという森林タイプの転換が見られる。現在は途中のパー・ラオ、パー・コクもしくは土壌条件によりもともとパー・ラオである森林を焼畑のために切り開き、ハイ→パー・ラオ→パー・コク→ハイ、もしくはハイ→パー・ラオ→ハイという循環をすることが多いようである。

(4) タム (Tam)

小河川、池沼付近のごく疎らな灌木林である (写真 .d)。ここは、雨季には水に浸かってしまう。小低木及び、背の低い竹の叢生からなる。

3-2. それぞれの森林タイプで採取される食用植物および菌類

この森林分類に従うと、村人に採取される植物・菌類はそれぞれの森林タイプによって一定の傾向を見ることができる (表)。パー・ドンは、主に木の実や、キノコを採取する場であり、少数であるが木本植物由来の葉菜類やタケノコ類も採取される。木の実とシロアリの塚に生えるキノコは、他の森林タイプには見られない特徴となっている。ここで採取される葉菜類もほかの森林タイプでは見られない、パー・ドン特有のものとなっている。パー・コクは、主にキノコと木本植物由来の葉菜類の採取場所となっている。キノコは土に生えるものが採取できることが特徴的である。葉菜類は木本植物由来のものであるが、パー・ドンで採れるものとは異なる。タケノコも採取されるが、パー・ドンにも共通のものである。パー・ラオは多くの種類のキノコが出る場所とされ、土

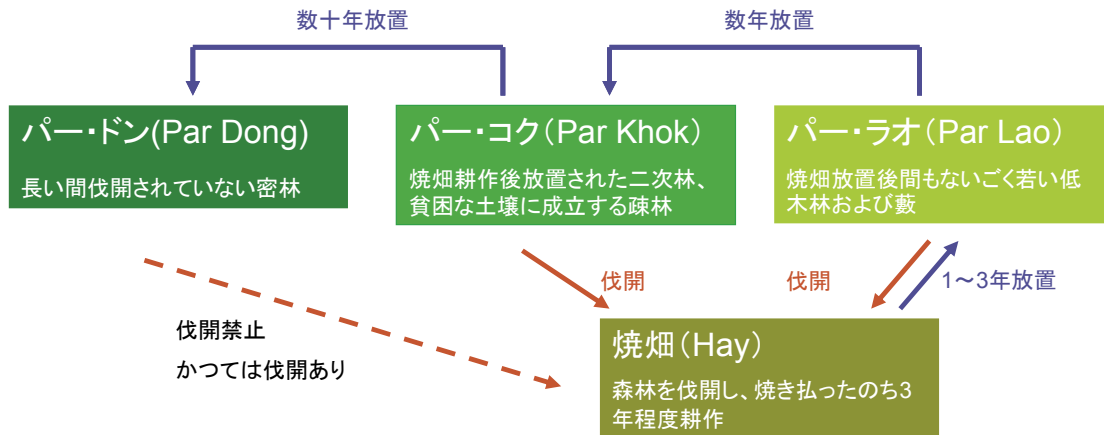


図. 焼畑を介した森林タイプの転換様式

資料: 2004年聞き取り調査を元に作成

の上に生えるキノコと木から生えるキノコが多数採取される。木から生えるキノコが多く採れる理由として、伐開した際にでた木材が多く残存しているためであると語る村人がいた。タムでは、タケノコ類と豊富な葉菜類が採取される。タケノコはタム特有のものである。葉菜類は草本植物、藻類由来であることが特徴的である。またタケノコ類もタム特有の種類である。

このように、ここで分けた森林タイプと採取される産物の種類の間には概ね対応関係があることが見出せる。

しかし、いくつかの森林タイプにまたがって、もしくは局所的に採取されるものもあり、採取物の多様性のメカニズムを明らかにするためには、特定の村落でのより詳細な調査が必要となる。

4. 生態史的研究のための予察と今後の課題

村人によって採取される植物・キノコの種類は、ある程度森林タイプと対応関係にあるため、村人の植物・キノコ利用を生態史的に見るためには、森林のタイプが人間活動とそのような関係を持っているかに着目することが重要である。

パー・ドンとタムは人による伐開がなされることなく成立している森林である。焼畑造成、開田、宅地化など何らかの理由で伐開活動が行なわれるならば、これらのタイプの森林は消失する。焼畑が放置され、パー・ドンに戻る場

表. 森林タイプ別に見た採取可能な野生食用植物・キノコの一例

パー・ドン	木の実	マク・フイ、マク・ニャン、マク・クイ・リン、マク・ピブアン、マク・タークアン、マク・トーン、マク・コー、マク・モーン、マク・ムアイ、マク・ノム・グア、マク・ルアン、マク・ボク、マク・ニャオ、マク・ファイ、マク・ポ、マク・コ
	キノコ	シロアリの塚から: ヘッ・プア、ヘッ・プア・ソン、ヘッ・プア・タツ、ヘッ・プア・サイ、ヘッ・プア・チ、ヘッ・プア・チョム・ルキン、ヘッ・プア・カイ・ノイ 木材から: ヘッ・ボツド、ヘッ・カオ、ヘッ・フーヌー、ヘッ・ハイ、ヘッ・ティン・ヘッ、ヘッ・ケンナン、ヘッ・ティン、ヘッ・シン 土から: 詳細は不明だが、いくつかの種の発生があるという。
	葉菜類	木の葉: パク・ムアット、パク・オム・トア、パク・キモウ、ヤ・ナアン、花: ドク・コンケアン
	タケノコ	ノー・ライ、ノー・ボオン、ノー・ヒアツ、ノー・ソート
パー・コク	葉菜類	木の葉: パク・ティウ、パク・サメック、パク・カドゥン、パク・クレック、パク・カダオ、パク・ヴァアン 草本植物: ドク・デー
	キノコ	土から: ヘッ・ナーサオ、ヘッ・タン、ヘッ・カ、ヘッ・ラゴ、ヘッ・カイ、ヘッ・ナータン、ヘッ・タムファン、ヘッ・ポ、ヘッ・テ、ヘッ・タア、ヘッ・フン、ヘッ・クアン、ヘッ・クア、ヘッ・ノッキ、ヘッ・ムアイ
	タケノコ	ノー・ライ、ノー・ボオン
パー・ラオ	葉菜類	木の葉: パク・ティウ、パク・サメック
	キノコ	土から: 詳細は不明だが多数採取できる。 木材から: ヘッ・ボツドその他
タム	タケノコ	ノー・カサ、ノー・パイパー、ノー・マンムー
	葉菜類	草本植物: パク・カドゥン、パク・カナム、パク・カイ・キアツ、パク・ボン、パク・キークアイ、パク・ケブ、パク・ケエン・コム、パク・ケエン・ソム、パク・ホム・ケブ、パク・リン・ファン、パク・カ・ニエイ、パク・カン・マー、パク・イーヒー、パク・パァイ、パク・カンチョン、パク・トブ・ポーン、パク・マイ、パク・カムブー、パク・クウム、パク・カム 水草・藻類: タオ、ネー・カイ・ヒアツ、ネー・ボン・ハーン、ネー・ハーン・マチョップ、ネー・メー・タオトブチャイ

資料: 2004~2005年サイタニー郡10か村における聞き取り調査による。
注: これまでの調査で採取地の森林タイプが明らかにできた野生食用植物・キノコのみを示した暫定的なものである。

合には長い年月が必要とされる。一方、パー・コクとパー・ラオは、村人の焼畑耕作活動の結果成立している森林である。焼畑耕作活動が定期的に行なわれるならば、これらの森林タイプは転換しつつも安定して存在する。しかし、焼畑耕作活動が縮小、拡大することによって、その村におけるこれらの森林タイプの構成比率は変化することになる。

サイタニー郡では近年開田が著しく進み、一方、焼畑はあまり行なわれなくなった（本報告書中の足達・宮川報告を参照）。この結果、サイタニー郡の各村落では、森林の構成比は大きく変化したか、変化している最中であると思われる。そのため、森林環境に依存する彼らの野生植物・キノコ利用のあり方も変化しつつあるものと考えられる。

このように、サイタニー郡 10 か村から得られた情報から、一般的に認識されている森林タイプと採取される植物・キノコとの対応について整理し、村人の野生植物・キノコ利用の生態史的研究のための予察を試みた。しかし、これはごく大雑把な情報によって森林タイプと採取される植物・キノコとの間の相関関係が存在する可能性を見たに過ぎず、その相関関係を実証するものではない。今後は、当班の重点調査地 Donkhuai 村で、様々な角度からの環境認識、またそれらと様々な生業活動や開発との関わりを具体的にみることで、村人の採取活動を通して描く生態史への大きな課題となる。

文献

小野映介 2004 ラオス平野部における地形環境研究の課題。2003 年度生態史プロジェクト報告書：216-217

Summary

People gain a lot of foods from natural environment in Vientiane plain. This study is intended to categorize woodlands in plain field and clarify what is collected in each type of woodland. Interview survey was conducted in 10 villages of Xaythani district.

Even though there are some varieties in classification of woodlands by local people, we can find 4 types of woodland. 1) Par Dong: deep forest where is not cut down for long time and contains big trees. 2) Par Khok: light forest where is cut down in past or stand on poor soil. 3) Par Lao: young woodland where is cut down in some years and have only small trees and bushes. 4) Tam: sparse scrub where is dunked in water in rainy season.

At "Par Dong", people collect fruits or nuts of trees and mushrooms which mainly grow up on termite mound. At "Par Khok", people collect edible tree leaves and mushrooms which mainly grow up on ground. At "Par Lao", people collect mushrooms which grow on timber and ground and some kinds of bamboo shoots. At "Tam", people collect other kinds of bamboo shoots, edible herbaceous plants, water weeds and algae.

These results are beginning of understanding human-natural relationship in Vientiane plain. It will be an assignment for this study to clarify reality of collecting activities and relationship between woodland types and human impact (shifting cultivation, cutting fuel wood, and so on) by intensive field survey in a village.